

CO・OP

京都の生協

2021/January/No. 103
京都府生活協同組合連合会



被爆者の声に耳を傾け、「核なき未来」を構築する。
——核兵器の非人道性を語り継ぐ「被爆2世・3世の会」——

TalkTalk トークとーく

◆京都「被爆2世・3世の会」 世話人代表 たいら 平 のぶ 信 ゆき 行さん
◆京都府生活協同組合連合会 会長 理事 にし 西 しま 島 ひで 秀 ひさ 向

対談

TalkTalk トークとーく



被爆者の声に耳を傾け、核なき未来を構築する。

——核兵器の非人道性を語り継ぐ「被爆2世・3世の会」——

京都「被爆2世・3世の会」 世話人代表

平 信行さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事

西島 秀向

原爆投下から75年が経過し、広島・長崎の被爆者は14万人を下回りました。平均年齢は83歳、被爆体験の継承が困難になっています。被爆体験と自らの原爆に関わる人生体験を継承し、社会に発信し、核兵器の廃絶・平和な世界実現のために貢献することから始めたんです。その取り組みの途中で「本にしては」とアドバイスをいただき、上下巻に分けて発行することにしましたが、よもや上巻だけで521ページになるとは想定外でした。

日本での被爆者の核廃絶の訴えは子や孫に受け継がれ、さらに世界の核実験によるヒバクシャの声と共鳴して、核兵器禁止条約の発効へと導きました。

被爆体験を残すのは時間との闘い

西島 『語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心』上巻、全521ページを拜読しました。初めて知る内容も多く、心が揺さぶられる思いです。

西島 貴重な証言ですから、当然だと思います。

平 お読みいただき、ありがとうございます。じつは最初は本にするとは考えていなくて、被爆者の高齢化でその体験が語られないまま消えてしまうことに危機感があり、お一人ずつ取材やインタビューを

するところから始めたんです。その取り組みの途中で「本にしては」とアドバイスをいただき、上下巻に分けて発行することにしましたが、よもや上巻だけで521ページになるとは想定外でした。

平 それは本当に痛苦の思いでした。下巻発行にむけて被爆者の方の取材に何うと、「(下巻は)いつ完成するのですか」と尋ねられることが多いのです。それは自分の余命と本が完成する時期とを推し

つ取材やインタビューを



「語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心」(かもがわ出版)

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

被爆者の声に耳を傾け、核なき未来を構築する。——核兵器の非人道性を語り継ぐ「被爆2世・3世の会」—— 2

TOPICS

「ヒバクシャ署名京都の会」3年間の活動まとめと次への前進を考えあう集い	7
理事・監事研修会	7
京都の生協活動功労者表彰	7
京都府食の安心・安全意見交換会	7
京都府生協連緊急企画第34回・第35回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」	8
第20回京都府協同組合役員体験・交流学校	10
おもな行事のお知らせ	10
年賀状	10





京都府生活協同組合連合会 会長理事
西島秀向

量るような質問の仕方、「ああ、本当に待ってくださいってあるんだなあ」と実感します。ですから、ご無事なうちにちゃんと届けたいという思いだけは強く持っています。

後を託された「2世・3世の会」

西島 平さんは、この本の編者である京都「被爆2世・3世の会」の世話人代表をなさっておられますね。どんな想いで会を立ち上げられたのですか。

平 私自身は、父母とも被爆体験をよく話してくれましたので、その子どもであると自覚しながら育ちました。

大学卒業後は被爆者運動に熱心に関わっていたわけではありませんが、大学生協の職場を定年退職したとき、近所にお住まいの被爆者団体の方から「手伝ってくれないか」と声をかけられ、第二の人生の軸の一つとして関わりを持たせていただくことになりました。

当時、すでに被爆者の高齢化が進み、被爆体験の継承が大きなテーマになっていて、2世に後を託したいという話し合いもされていきました。そのタイミングで運動に参加したこともあって、数人の2世の人たちと話し合い、2012年に2世・3世の会を設立したので。

ところが、会がスタートした時点で、メンバーの半数以上は2世・3世の自覚はあるけれども親の体験は聴いたことがないという状況でした。つまり、親が自分の被爆体験を語っていない。子どもたちが尋ねても語られていない人が多かったのです。

ところが、会がスタートした時点で、メンバーの半数以上は2世・3世の自覚はあるけれども親の体験は聴いたことがないという状況でした。つまり、親が自分の被爆体験を語っていない。子どもたちが尋ねても語られていない人が多かったのです。

西島 それは思い出すのもつらい体験だからですか。

平 それがいちばん大きいのではないかと思います。思い出すことや、それを語ることで自分が非常につらいので、子どもたちにも語りたくない。私がつらい話だなと思ったのは、親は何も語ってくれなかったが、親戚など周りの人から聞かされて初めて知り、それから親を問い詰めたなどという人もあったという事実です。私たちは、それほど苦しいことだったのだと理解した上で運動を広げなければと思っています。

2世・3世が背負うもの

西島 被爆者救済や核廃絶の運動を進める上で、2世・3

世ならではの難しさはありますか。

平 そもそも親から被爆体験を聴いておらず自分が2世・

3世であることを知らない人と、知っているけれども表に出したくない人もあります。私たちが広報や宣伝をして、親から2世・3世であることが知られていない人や、知っていても言いたくない人が結構あるのだからと思います。会員は現在、2世が60人、3世が10人です。京都府内の被爆者の方は900人弱ですから、そのことを考えると、その子どもたちだけでも、もっと多いはずなんです。

私が京都大学生協の職員だった頃、生協の学生委員会を中心に広島・長崎・沖縄な



京都「被爆2世・3世の会」世話人代表
平 信行さん





どを訪れ戦争と平和を学ぶ「ピース・ナウ」という企画があつて、それに参加した京大生のレポートの中に「被爆は遺伝的に影響する」という記述が、京大生協の機関紙に

掲載されたことがあります。それを讀んだ2世の学生組合員の方が「遺伝的影響は証明されていない。こんなことを書くから差別されるんだ」と猛烈な抗議をしてこられま

被爆者救済の取り組み

西島 被爆から何十年も経つ

しょうか。

た後に手帳を申請する人が多

平 手帳を持つことは自らが被爆者であると認めることになるので、就職や結婚などの

した。それほど重い荷物を背負って生きている2世もいるのだということが身にしみて感じられて、いまでもよく覚えていています。

障害になるのではないかとの懸念から申請を控えていた人が多いいと思います。ですから、子育てを終えた後や、高齢になって健康不安を覚えるよう

になって初めて申請したという人が少なからずおられます。手帳があると、国の制度で医療費の本人負担分や健診・人間ドックが無料になり、特定の11疾患に罹患すると健康管理手当が支給されますので、

助などで2世を援助している例があります。ここ京都府においても支援策を求めたいところですよ。

いろいろな臓器のがんなどに罹患することが多い被爆者にとっては重要な制度です。

国は、被爆者の放射能被害に遺伝的影響は認められていないという見地から2世への支援制度は採らないとしています。支援制度は採らないと見解の相違があります。これ

西島 そうした国の支援は、2世も受けられるのですか。

平 2世・3世は対象外です。ただ、ごく一部の地方自治体

が独自施策として、治療費の補助やがんを含む健診料の補

いきます。

25万人の声—京都の「ヒバクシャ国際署名」

西島 平さんは、核廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名を大きくひろげる京都の会」の呼びかけ人も務めておられますね。

止条約が国連で採択された2017年に、できるだけ広範な人たちと協同して署名を広げようということで京都でも「ひろげる会」を結成しました。

この運動のなかで、被爆3世でこの署名運動の先頭に立っている林田光弘さんの、「自分ごととして捉えられるか。当事者意識を持てるか」という

平 この署名は、被爆者が呼びかけ人になって訴える署名としては最初で、しかも最後になるだろうと言われてきたものです。

この会に京都府生協連が呼びかけ人として参加してくださったことは、とても大きな力になっています。

西島 生協にとっても、この運動に参加できたことは大きな学びになりましたが、私は

全国では2016年から始

まっています。

平 核兵器禁止条約は国連での採択から3年を要して、ようやく今年10月に50カ国が批准し、2021年1月の発効



核兵器禁止条約は人類の未来への希望

が決まりました。こういう事態になると「核兵器は必ずなくせる」と確信しますし、林田さんのような若い世代の発言はそういう現在の到達点を反映したものだと思えます。若い世代という点では、学生のみなさんを前に核兵器の

現状やその危険性について話をしたとき、けっこう反応があったのは、地球上に核兵器がどれだけあるかだけではなく、核実験が2000回以上もこなわれ、その実験場の多くは植民地や先住民居住地が選ばれているという話でした。

初めて知った事実を、驚きをもって受けとめてくださったという印象でしたから、やはり事実は事実として、歴史を丁寧に学べるようにすることが、特に若い方がたに対していちばん重要な働きかけではないかと思えます。

西島 核兵器禁止条約の発効決定のニュースは、大きな喜びをもって全国を駆け巡りました。

平 これは被爆者や世界のさ

まざまな人たちの努力の結果であり、まずはすばらしいことだと思えます。

もう一つ強く思ったのは、50の批准国のうち4割は人口

力をはねのけ、勇気をもって自国の主張を通し、批准を断じた国がこんなに多いことに、人類の将来への希望を見いだすべきではないかと考えています。

150万未満の小さな国だという点です。ややもすると、それを取り上げて、「核保有国や大國が賛同していない条約に、はたして実効性はあるのか」というような見方も出されますが、私はむしろ、アメリカやロシアなどの大國の圧

西島 それは核実験の多くが小さな国でおこなわれているという、先ほどのお話とも重なるかもしれませんね。

「核保有国や大國が賛同していない条約に、はたして実効性はあるのか」というような見方も出されますが、私はむしろ、アメリカやロシアなどの大國の圧

平 これらの国は、核被害を受け、いまでも深刻な状況が続いています。

国連の加盟国が創立時の51カ国から現在の193カ国に増えたのは、それだけ植民地として支配されていた国が減り、国際政治の舵取りを、かつての大國だけでなく、小さな国も対等な立場で担い始め



ている証拠ですから、国際社会はこれらの国の切実な主張に耳を傾けるべきではないでしょうか。

その意味で、核兵器禁止条約の発効決定に強い感銘を覚えるとともに、これを力にしながら、いよいよと思っています。

西島 まして日本は被爆国ですから、核兵器廃絶を国際社

会の先頭に立って求めなければなりませんね。

平 まったく同感で、日本政府が条約に批准しないのは残念としか言いようがありません。ただ、それが現実ですから、そこを変えていくような市民運動を展開して、批准に向けた世論を形成していかねばと思っています。

すから、核兵器廃絶を国際社

次世代とともに歩む核廃絶運動

西島 そういいう世論づくりにおいては、林田さんのような若い世代の存在が心強いですね。

彼はSNSを運動に活用するというアイデアを話していましたが、そういう新しいやり方が被爆者の方がたの想いと結びつけば大きく広がるのではないかと期待しています。

平 若い人たちの発言や行動はとても頼もしく、私も彼らに大いに期待しています。

ただ、いまの中学や高校の教科書を調べると、たとえばビキニ環礁での水爆実験については第五福竜丸の被曝すら書かない教科書があるんですね。そういう現実も知った上で、どんなテーマやプログラムがいいのかを若い人たちとよく話し合い、新しい市民運動のあり方を考える必要があります。

西島 若者の参加の少なさは、核廃絶だけでなく他の分野の活動でも指摘されていますが、一方で環境問題や健康・食などのテーマに関心を持つ若者も少なくないので、そうした彼らの価値観や生活スタイルにマッチした取り組みができればと思います。

その意味では、大学生協の果たす役割は大きいと思います。が、生協・協同組合にはどんなことを期

待されますか。

平 ヒバクシャ国際署名名で京都の会が集めた25万筆のうち、約12万筆は京都の生協のみなさんが集めてくださいました。本当に大きな力を発揮していただいで、生協のみなさんのパワーはすごいなどあらためて思ったのですが、ただ大学生協の参加は、署名数も署名行動や講演会などの参加者もそれほど多くなかったというのが率直な思いです。

大学生協の中心は若い人たちですから、先ほどおっしゃったように、彼らをもっと参加できる取り組みが必要ですし、私たちも学生のみなさんと話し合う機会をぜひ持ちたいと思っています。

西島 特に核兵器禁止条約の発効が決定したこの時期にそういう機会が設定できれば、運動に弾みがつきますね。

最後に、核廃絶を求める運動にどんな展望をお持ちですか。

平 京都でいえば、府内の

隅々まで実体のある運動をつくっていくことが課題だと考えています。それが世論を高め、日本政府を動かすことにつながるはずだという展望を持って、コロナ禍などの困難に屈せず、粘り強く訴えていきたいですね。

西島 協力できるところは、ぜひ生協も一緒に取り組みたいと思います。ありがとうございます。



プロフィール 平 信行 (たいら のぶゆき)

1951年4月 広島県に生まれる 両親ともに広島市での被爆者
1974年3月 同志社大学法学部卒業
1974年4月 同志社大学生協に就職
以後、京都工芸繊維大学生協、京大大学生協、大学生協京都事業連合に勤務し、2011年6月 定年退職
2012年10月 京都「被爆2世・3世の会」を結成 世話人代表
2020年7月 原水爆禁止京都協議会事務局長就任

(写真撮影・豆塚 猛)

今回の対談は無鄰菴の母屋の2階をお借りしました。

「無鄰菴」

明治27(1894)年5月29(1896)年に造営された明治・大正時代の政治家山縣有朋の別荘。東山を借景とする近代日本庭園の傑作。庭園は施主山縣有朋の指示に基づいて、七代目小川治兵衛により作庭。日露戦争開戦前の明治36(1903)年、外交政策を話し合う「無鄰菴会議」が開かれたことでも有名。昭和26(1951)年、国の名勝に指定。現在は、「庭に集い、庭をはぐくむ」をスローガンに、庭園文化をはぐくむイベントを実施。庭園カフェも営業。https://www.murin-an.jp
○入場料：600円(税込み)／人
○開園時間は、9時より17時(10月3月)／9時より18時(4～9月)



無鄰菴 庭園カフェのメニュー

「ヒバクシャ署名京都の会」3年間の活動まとめと次への
前進を考へあう集い

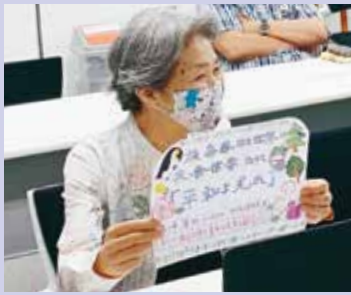


ヒバクシャ国際署名
キャンペーンリーダー・林田光弘氏

2020年9月26日(土)、
「ヒバクシャ国際署名」の活
動の終結、区切りを迎えるに
あたり、ヒバクシャ署名名京都
の会の3年間の活動をまと
め、これからの在り方につい
て考へあうことを目的に、オ
ンラインと実参加の併用で開
催され、60人が参加しました。

主催はヒバクシャ国際署名を
大きくひろげる京都の会(略
称・ヒバクシャ署名名京都の
会)。京都原水爆被災者懇談
会・花垣ルミ世話人代表より
あいさつがあり、ヒバクシャ
国際署名キャンペーンリーダ
ー・林田光弘氏より「『ヒバ

クシャ国際署名』運動の作り
出してきたもの―これからの
課題と展望―」をテーマに基
調講演のあと、意見交換をお
こないました。京都生協から
は、核不拡散条約(NPT)
再検討会議代表派遣予定の
姜美名理事と、組合員の西田
真理さんより取組みの報告が
ありました。最後に原水爆禁
止京都協議会・平信行事務局
長よりヒバクシャ署名名京都の
会の3年間の活動まとめの報
告があり、今後もゆるやかに
継続して幅広い団体・個人の
みなさんと力を合わせて核兵
器廃絶をめざしていくことを
確認しました。



メッセージを掲げる、京都原水爆被災者懇談会・花垣ルミ世話人代表

理事・監事研修会

毎年、新しく理事や監事に
なられた方を対象に、生協法
の知識や監事の権限と職務な
ど、基礎的な知識を学ぶこと
を目的に開催しています。今
年は新型コロナウイルス感染
拡大を受け、大阪府生協連と
連携し、オンラインと実参加
を組み合わせて3回開催。



日本生協連 総合マネジメント本部
法務部・宮部好広氏

第1回2020年8月20日
「理事・監事の基本的な職務・
役割」、講師は日本生協連・宮
部好広氏。第2回10月14日「購
買生協の会計・決算関係書類
の見方・経営分析」、講師は日
本生協連の土屋里奈氏・大澤
哲也氏。第3回10月21日「医
療生協の経営状況と理事・監

事の役割について」、講師は日
本医療福祉生協連・高瀬信之
氏。参加者は、第1回24人、
第2回20人、第3回8人。参

加者からは「役員の役割が理
解できた」、「改めて経営とい
う視点が重要であることが理
解できた」などの感想があり
ました。

京都の生協活動功労者表彰

京都府生協連の表彰制度に
もとづき毎年おこなっている
功労者表彰ですが、新型コロナ
ナ感染拡大を考慮し、今年度
は表彰式をおこなわず、対象
となられた方に、感謝状と記
念品を送付させていただきました。

表彰の対象となった方は、
2019年8月1日から20
20年7月31日までのあいだ
に退任した役員のうち、①役
員在任期間が2期以上または
2年以上あった方、②特別に
功労があったと認められる方、
です。

2020年は各会員生協か
ら8人が推薦され、表彰され
ました。

京都府食の安心・安全意見
交換会

2020年8月27日(木)、
京都府公館第5会議室で、第
2回意見交換会が開催されま
した。

京都府農林水産部農政課・
渡邊昌英参事が開会のあいさ
つ。「京都府食の安心・安全行
動計画取組状況について」、「大
手スーパーと連携した中食世
代の健康おぼんざいの普及に
ついて」、「エビコロナ時代の
新しい生活様式をふまえた健
康づくりの推進について」の
報告があり、意見交換しまし
た。新日本婦人の会京都府本
部、京都府連合婦人会、京都
市地域女性連合会、NPO法
人コンシューマーズ京都、京
都府生協連から、9人が参加
しました。

11月17日(火)には、オンラ
インで第3回意見交換会が開
催されました。「京都府農林水
産技術センター農林センター
の取組について」、「京都オリ
ジナル良食味米新品種の育成
について」報告があり、意見
交換しました。

豊かに発展させる協議会」(略称：KSK)

協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

組合はどうやって支えられるか？」

第34回

第34回コロナ禍の中で「学生のまち」京都は今

2020年7月14日(火)、コープ・イン・京都で第34回KSKを開催しました。役職員や、議員、マスコミなど、実出席とオンライン出席、あわせて約100人が参加しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの大学では対面授業ができず、学生の通学が規制されている状況の中で、京都の大学生についての現状認識を深め、これからの『学生のみち』京都のありようや、京都府内の生協はその生活をどのように支えられるかを考えあう機会として、緊急に開催しました。



立命館大学共通教育推進機構・山口洋典教授より、「Face COV ID-19 新型コロナウイルスに向き合う」立命館大学の取り組み」と題して、卒業式や入学式が中止となり、春学期開講に伴う授業形態を見直し、2020年5月以降はWEBを活用した授業を再開したこと、立命館生協による学生生活アンケート結果報告や下宿生支援・パソコン講座等で学生サポートをした事例についての報告がありました。龍谷大学(政策学部・深尾昌峰教授(龍谷大学学長補佐)からは「コロナ禍における学生支援」龍谷大学の取り組み」と題して、学生生活への

影響調査や学生支援方策の展開事例、学生支援募金を設置して食材提供を実施したこと、学生への食支援として大学生協とも連携して栄養面のバランスに配慮しながらすすめたことなどの報告がありました。

京都橘大学4年生・寺田善照さんより、「学生生活の現状と期待・悩みについて」と題して、キャンパスに行けないために先生や友人と会えないこと、特に新入生は友人ができない悩みがあること、秋には新入生歓迎のイベントを企画したいなどの報告がありました。龍谷大学政策学部・只友景士教授がコーディネーターとなり、学生支援の実情についての質疑や、問題意識の共有を深めました。



行動提起する京都府生協連・中森一朗常任理事
(現・全国大学生協連)



会場参加者も熱心に聞き入って

緊急企画

京都府生協連「京都の生協活動を ～組織と事業のイノベーションによる

第35回

テーマ

『学生のまち』京都を生活協同

第35回 大学1回生の生活から私たちができること



パネルディスカッション
1回生の報告と進行役の4回生

※京都ファーストイヤープログラム（略称：FYP）
大学生協事業連合が開催している、1回生からはじめる体験型学び講座

ラム』（略称：FYP（※））と題し、FYP事務局及び受講生より報告がありました。

その後、「私たちは『学生のまち』京都をどうやって支えられるか」をテーマに、京都府生協連・中森一朗常任理事・大学生協事業連合常務理事（現・全国大学生協連）より行動提起があり、つづいて京都府が作成した「新しい生活様式の実践に向けた学生向け啓発動画」を視聴しました。

前回にひきつづき、龍谷大学政策学部・只友景士教授がコーディネーターとなり、これまでの質疑や、問題意識の共有を深めました。

参加者からは「さまざまな団体の方がたが、私たち新入生のために試行錯誤して活動を実施してくださっていることを知り、周りに感謝しなければならぬという想いが深まりました」「少しでも新しい様式の中で心地よく生きていけるように、課題に取り組みたいと改めて痛感しました」「参加者の広がりがあり、大学生協の生の意見が教員の方だけではなく、行政関係者など、さまざまな方に届く良い企画だった。質問の切り口も興味深く、理解を広げることができた」「大学生協に求めることは何か」の質問で学生さんの一番切実な願いを聞くことが出来、改善すべき点として強く認識した」など、多くの感想が寄せられました。

第34回KSKを受け、2020年10月10日（土）、京都府民総合交流プラザ京都テルサで第35回KSKを開催しました。役員や、議員、マスコミなど、実出席とオンライン出席、あわせて103人が参加しました。

第2弾の今回は大学1回生が多数参加。彼らがどのような生活を送り、何に悩み、何を頑張っているのか報告を聞き、京都府内の生協、大学、行政がどうサポートできるかの意見交換をしながら内容を深める機会として開催しました。西島秀向会長理事が開会のあいさつをおこない、高取淳専務理事が進行をつとめました。はじめに京都市・門川大作市長より「京都の学生へのメッセージ」と題してビデオメッセージをいただきました

ました。つぎに「後期開講後のリアルな実態やアフターコロナへ向けて」と題して新入生（京都大学・石田早侑梨さん、立命館大学・原いこさん、龍谷大学・三浦蒼玄さん）によるパネルディスカッションがありました。

学生から、オンライン授業に対する戸惑い、新入生の不安、コミュニケーション不足が加速していることなど、現状と悩みについて、発言がありました。

つづいて「学生自身による、コロナ禍での新入生支援の取組み」と題し、立命館大学・生協学生委員会の坂元亮太さんより報告があり、「コロナ禍でも！大学の枠を超え京都で学ぶ『京都ファーストイヤープログラム

第20回京都府協同組合役職員体験・交流学校

2020年9月10日(木)に開催され、21人が参加しました。主催は京都府協同組合連絡協議会。京都府の協同組合(農協、漁協、森林組合、生協)で働く役職員の教育と育成を目的とし、連携や課題を学び、認識を深めあう機会として毎年開催。今回は京都府森林組合連合会が企画を担当



コンテナ苗木の生産

し、「林業の生産現場から」木材の始まりから伐採まで」をテーマに開催しました。京都府森林組合連合会・経営企画課の住和宏課長よりあいさつとオンラインセッションがありました。その後、木材開発株式会社を訪問し、「コンテナ苗木の生産現場」を見学。

種から育苗して、山に植えた杉やひのきの苗木が長い年月を経て成長した木を伐採して提供されていることなどを学びました。次に(有)中西至誠園を訪問し、「山林用苗木の生産現場」の視察。山で育つ木が平地で苗として育てはじめることや無事に成長するまでの管理(温度・水・日照等)には多くの方々の労力と費用がかかっていることなどを学びました。最後に京丹波森林組合を訪問し、「木材の伐採現場」を見学。広大な森林の中で数人の職員の方が巨大な重機を使っておられること、危険を伴う作業のため、安全には最大限の配慮をされる作業をされていることなどを



重機での作業

学びました。参加者からは「同じ協同組合同士、これから連帯や連携ができればと思います。現場にもなかなか余裕がないのが現状ですが、特に若い職員などは他業種の組合の業務などにも触れるよききっかけだと思います」「毎回、体験交流学校に参加すると、協同組合がさまざまな場面で、地域やくらしを支えていることを再発見できます」などの感想が寄せられました。



平地で育つ苗木

おもな行事のお知らせ

2021年新春交歓会 中止のお知らせ
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止することといたしました。

京都府生協連と各会員生協の相互連絡通信訓練
日 時：2021年1月14日(木) 8:45~10:00

第36回京都の生協活動を豊かに発展させる協議会(KSK)
日 時：2021年1月19日(火) 13:30~16:00(予定)
会 場：コープ御所南ビル4階会議室(オンライン)

2020年度きょうと食の安心・安全フォーラム
日 時：2021年2月1日(月) 13:30~15:30(予定)
会 場：京都経済センター6階(オンライン)

テーマ：「信頼を支える京の食」

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、変更になる場合があります。あらかじめご了承下さい。

謹賀新年

旧年中はご支援・ご協力を賜り、ありがとうございました。新型コロナウイルス感染症拡大により、私たちのくらしは大きく変わりました。事態が一日も早く収束することを願うばかりです。本年もみなさま方のお力をいただきながら、協同組合の役割を發揮してまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

二〇二一年 一月一日

京都府生活協同組合連合会
会長理事 西島 秀向

